

1. はじめに

(1) 高齢者生活支援施設「結の里」の概要

「結の里」は、2011年3月11日の東日本大震災で大きな被害を受けた宮城県南三陸町（以降、「町」と表記）で整備された高齢者生活支援施設である。災害公営住宅の戸数が最も多く、高齢者の入居が多く見込まれた志津川東地区において、高齢者の在宅生活を支える介護サービスを提供するとともに、子どもから高齢者まで、町民の誰もが気軽に集い、地域でのささえあい・助け合いが広がっていくような「みんなの居場所・ささえあいの拠点」として、平成30年4月1日に開設された。本施設の概要は以下の通りである。

所在地	宮城県本吉郡南三陸町志津川字天王山 38-152
敷地面積	2,541.73 m ²
延べ面積	526.17 m ²
構造	木造平屋建
建築設計	株式会社福祉医療建築設計事務所
建設工事	志津川建設株式会社
整備運営	社会福祉法人 南三陸町社会福祉協議会

本施設は、計265戸と町内で最も戸数の多い災害公営住宅「志津川東復興住宅」に隣接して建てられている。介護保険の通所介護を行うデイサービスセンター、介護の相談・ケアプラン作成を行う居宅介護支援センターのほか、様々な世帯の相談を一元的・包括的に受けつける総合相談窓口、地域交流の場となるカフェラウンジなどが設けられている。施設の南面はウッドデッキとなっており、対面する志津川東復興住宅の集会所と一体的に利用が可能となっている。



南三陸町社会福祉協議会 結の里ホームページ(<https://www.minamisanriku-syakyo.or.jp/pages/30/>) より



外観



居宅介護支援係



地域福祉係



えんがわカフェ



デイサービスセンターしづがわ



浴室



厨房



デイサービスセンターしづがわ



外観

南三陸町社会福祉協議会 結の里ホームページ(<https://www.minamisanriku-syakyo.or.jp/pages/30/>) より

(2) 検討経緯の概要

「結の里」の開設に至る経緯は次ページの年表に示す通りである。

災害公営住宅での高齢者の孤立化が危惧されることから、地域ささえあいの拠点となる福祉・交流施設の必要性が、町の福祉アドバイザーであった本間照雄氏（現・地域福祉研究所）から指摘された。そして町保健福祉課・復興事業推進課と災害公営住宅を整備するUR都市機構（以降、「UR」）とが意見交換会を行い、福祉と住まいの連携構想が出された。

構想を受けて、宮城県が、南三陸町・日本建築学会・国土交通省直轄調査チーム・URが参加する検討会を主催し、志津川東地区の災害公営住宅・集会所の具体的な計画を検討するとともに、隣接する福祉・交流施設のコンセプトと整備イメージを検討し共有した。

南三陸町は、デイサービス、居宅介護支援事業所を兼ねた総合相談窓口、高齢者の見守り拠点とともに、高齢者や子育て世帯等が集い交流できる拠点を整備・運営する事業者の企画提案を公募した結果、南三陸町社会福祉協議会（以降、「社協」）が整備・運営事業者として選定された。

選定後、社協では施設や活動の具体化の検討を重ね、平成30年3月29日に建物が竣工した。町民からの公募により、建物の愛称が「結の里」と決定した。

■高齢者生活支援施設「結の里」開設までの流れと関連する主な取り組み



